

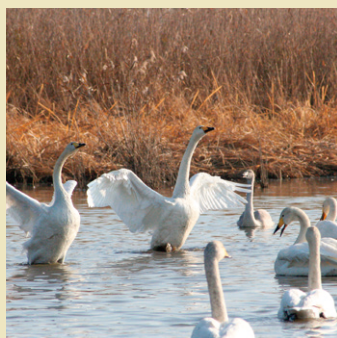
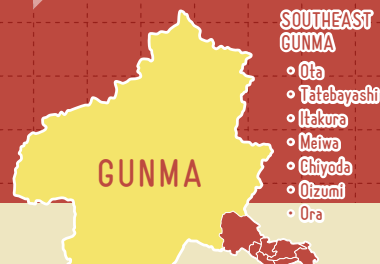


ぐんま暮らしのトリセツ

太田・館林・邑楽地域

7つのまち・7つの魅力、

あなたらしいライフスタイルのを見つけ方



太田・館林・邑楽地域

って、

こんなところ

群馬県の南東部に位置する

太田市・館林市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町は、「鶴舞う形」といわれる群馬県の中で鶴の頭とくちばしに当たる地域です。

7つのまちそれぞれに魅力と特色があり、アクティブライフも、のんびりスローライフも満喫できます。

都心部はもちろん、埼玉県・栃木県・茨城県とも平地続きで交流も多く、生活圏や行動範囲が県境をまたいで広がられるので、転職しない移住も十分可能です。

ものづくりが盛んで地域内で職を見つけやすいほか、就農支援に力を入れているまちもあります。

自分らしいライフスタイルにぴったりなまちを見つけてみませんか。

Let's Enjoy!!



大泉町

国際色豊かでコンパクトな工業都市

＜ 都内まで 80 分 ＞



千代田町

農業と工業が一体化したまち

＜ 都内まで 80 分 ＞



太田市

「住みよさランキング」毎年県内上位

＜ 都内まで 80 分 ＞



邑楽町

白鳥が飛来する豊かな自然環境のまち

＜ 都内まで 60 分 ＞



館林市

日本遺産の里沼と歴史ある城下町

＜ 都内まで 60 分 ＞



JAPAN



板倉町

子育て世帯と移住者への支援が手厚いまち

＜ 都内まで 60 分 ＞



明和町

水と緑と田園風景の広がるまち

＜ 都内まで 60 分 ＞



市町別
インフォメーション

太田・館林・邑楽地域の個性あふれる7つのまち。
どのまちも積極的に移住・定住促進に取り組んでいます。
あなたらしいライフスタイルにぴったりのまちを
見つけてください！

太田市 【おおたし】



全国有数の工業都市として活気に満ちたまち。都心へのアクセス抜群で、緑あふれる公園が多く、文化活動やスポーツも盛ん。利便度・快適度・富裕度で評価を得て、「住みよさランキング」(東洋経済)では毎年県内上位にランクイン。太田駅北口には「太田市美術館・図書館」、プロバスケットボールチームのホームでもある総合体育館「オープンハウスアリーナ太田」、西部エリアには行政・文化・スポーツが集約した「エアリスペース」と施設が充実。

人口222,402人／世帯数104,470世帯(令和7年12月末日現在)

各種サポート	子育て ●不妊治療・不育症治療助成 ●第3子以降保育料無料 ●パパママリフレッシュ事業(こども預かり施設) ●未就学児童給食費助成 ●保育園等利用児童おむつ給付事業 ●放課後児童支援(こどもプラッツ) ●小・中学生学校給食費無料化 ●高校生世代(18歳の年度末)まで医療費無料 ●各種奨学金制度	住宅・生活 ●空き家バンク ●住宅リフォーム支援事業補助金 ●住宅用再エネ機器導入報奨金
	農業体験・就農 ●市民農園	就労・起業 ●創業経営安定資金 ●女性起業支援(おわたでしこ未来塾)

問い合わせ先
太田市企画政策課
群馬県太田市浜町2-35
TEL.0276-47-1892
Eメール 005200@mx.city.ota.gunma.jp



館林市 【たてばやしし】



東京まで約1時間でアクセス可能。自然災害も少なく、企業にも選ばれている。また、茂林寺沼・多々良沼・城沼など日本遺産にも登録されている「里沼」の景観も館林市を特徴づける。豊かな自然環境と、総合病院や大型ショッピングモールなど都市環境が共存した住みやすい街。移住コーディネーターに相談も可能。

人口73,091人／世帯数35,090世帯(令和7年12月末日現在)

各種サポート	子育て ●不妊治療・不育症治療助成 ●こども誰でも通園制度 ●妊婦歯科健診助成・多胎妊婦健診助成 ●産前産後サポート・産後ケア事業 ●こども誕生祝金 ●子育て支援誕生祝品給付 ●第3子以降給食費無料 ●放課後児童クラブ保育料補助 ●高校生世代(18歳の年度末)まで医療費無料 ●館林市奨学金貸与 ●定住促進通学支援金	住宅・生活 ●市営住宅紹介・空き家バンク ●空き家活用助成金 ●移住定住ウェルカム支援金 ●住宅リフォーム助成金 ●結婚新生活支援補助金
	農業体験・就農 ●新規就農支援 ●市民農園	就労・起業 ●移住定住促進通学支援金 ●UIターン支援奨励金 ●定住新卒就職者奨励金 ●創業支援事業

問い合わせ先
館林市企画課
群馬県館林市城町1-1
TEL.0276-47-5102
Eメール kikaku@city.tatebayashi.gunma.jp



板倉町 【いたくらまち】



群馬県の最東南端にあり、ラムサール条約湿地・渡良瀬遊水地のある自然豊かな町。都心まで約60kmと県内で最も東京に近く、電車でも車でも約1時間。板倉ニュータウンに移住された方に、町独自の移住支援金を支給するほか、子育て世代への支援策が充実している。

人口13,320人／世帯数6,075世帯(令和7年12月末日現在)

各種サポート	子育て ●不妊治療・不育症治療助成 ●産後ケア事業 ●0歳児紙おむつ券給付 ●チャイルドシート購入費補助 ●子育て支援金支給 ●小中学校給食費無料 ●高校生世代(18歳の年度末)まで医療費無料 ●奨学金貸付 ●英語検定料半額助成 ●子育て支援無料アプリ ●奨学金返還支援補助金	住宅・生活 ●町営住宅の紹介 ●板倉ニュータウン移住支援 ●勤労者住宅資金融資 ●住宅取得支援 ●住宅リフォーム支援 ●合併処理浄化槽設置 ●費補助金 ●住宅用太陽光発電システム設置補助金 ●結婚新生活支援補助金 ●無料コミュニティバス運行
	農業体験・就農 ●貸し農園(ふれあいファームいたくら)	就労・起業 ●創業支援事業

問い合わせ先
板倉町企画財政課
群馬県邑楽郡板倉町大字板倉2682-1
TEL.0276-82-1111
Eメール k-kikaku@town.gunma-itakura.lg.jp



明和町 【めいわまち】



水と緑が豊富で、梨の栽培や施設園芸が盛ん。県内でも東京に一番近いエリアで、東京(北千住駅)まで電車で約1時間。日本一の就農支援と子育て支援、企業力が自慢のまち。東武伊勢崎線川俣駅周辺の再開発も進む。「仕事が好き、家族が好き」な方にも住みよい町を目指している。

人口10,648人／世帯数4,455世帯(令和7年12月末日現在)

各種サポート	子育て ●不妊治療・不育症治療助成 ●出産祝金支給 ●産後ケア事業 ●チャイルドシート購入費補助 ●第3子以降保育料無料 ●子どものインフルエンザ予防接種助成 ●こども国・ローイングリッシュ事業 ●高校生世代(18歳の年度末)まで医療費無料 ●奨学金貸与 ●英語検定補助 ●小中学生向けプログラミング教室	住宅・生活 ●町営住宅の紹介 ●住宅リフォーム補助金 ●結婚新生活支援補助金
	農業体験・就農 ●農業次世代人材投資資金 ●就農研修制度 ●果樹園芸関係補助金 ●ふれあい家庭菜園	就労・起業 ●ゴミ収集指定袋無料(一部) ●防災行政無線受信機貸出し ●明和Mターン促進奨励金 ●勤労者生活資金 ●創業支援事業 ●介護施設就労者支援 ●リスクリング教室

問い合わせ先
明和町総務課政策室
群馬県邑楽郡明和町新里250-1
TEL.0276-84-3111
Eメール kikaku@town.gunma-meiva.lg.jp



千代田町 【ちよだまち】



東西に細長く平坦で、水と緑豊かな町。米麦作中心の農業と、2つの工業団地による工業が高度に一体化して発展。都心へ約80分でアクセスでき、通勤も可能。待機児童ゼロを継続中で、若い世代や子育て世代が安心して暮らせるまちを目指している。

人口10,752人／世帯数4,772世帯(令和7年12月末日現在)

各種サポート	子育て ●不妊治療・不育症治療助成 ●産前産後サポーター派遣・産後ケア事業 ●一時預かり事業 ●ファミリー・サポート・センター ●第3子以降保育料無料 ●学校給食費全額補助 ●子育て育児用品購入費助成 ●高校生世代(18歳の年度末)まで医療費無料 ●奨学金貸与 ●英語・漢字・数学検定補助 ●電車による遠距離通学者助成	住宅・生活 ●町営住宅の紹介 ●移住者住宅取得費等補助金 ●空き家等バンク ●三世代ぬくもり家族住宅取得等応援事業 ●定住促進住宅用地(ふれあいタウンちよだ)分譲 ●勤労者住宅資金利子補給 ●住宅リフォーム補助金 ●結婚新生活支援補助金
	農業体験・就農 ●農業次世代人材投資資金 ●ふれあい農園	就労・起業 ●創業支援事業

問い合わせ先
千代田町総合政策課
群馬県邑楽郡千代田町大字赤岩1895-1
TEL.0276-86-7007
Eメール kikaku@town.chiyoda.gunma.jp



大泉町 【おおいづみまち】



面積は県内最小のコンパクトな町でありながら、電機・自動車関連企業が数多く立地し、北関東屈指の製造品出荷額を誇る町。「いづみ緑道」をはじめ数多く整備された公園には緑があふれる。また、人口の約21%を外国人が占め、国際色豊かな町としても知られている。都心部への通勤者も多い。

人口41,267人／世帯数20,905世帯(令和7年12月末日現在)

各種サポート	子育て ●不妊治療・不育症治療助成 ●産後ケア事業 ●ブックスター事業 ●子育て世代包括支援センター ●ファミリー・サポート・センター／ママヘルプ事業 ●小中学校給食費無料 ●学童保育学習サポート ●こどものインフルエンザ予防接種助成 ●高校生世代(18歳の年度末)まで医療費無料 ●英語検定補助 ●児童館・保育施設等英語教育推進事業	住宅・生活 ●町営住宅の紹介 ●大泉町空家等バンク事業 ●住宅リフォーム補助金 ●生ごみ処理機器購入費補助 ●電気自動車等導入費補助 ●農園の貸し出し
	農業体験・就農 ●創業支援事業 ●空き店舗等活用・創業促進事業補助 ●介護職員研修補助・看護職員入学金補助	就労・起業 ●創業支援事業

問い合わせ先
大泉町企画戦略課
群馬県邑楽郡大泉町日の出55-1
(新庁舎移転後は、群馬県邑楽郡大泉町日の出51-1)
TEL.0276-63-3111
Eメール kikaku@town.oizumi.gunma.jp



邑楽町 【おうらまち】



都心から約70km、標高が平均25mの平坦地で自然災害の少ない町。白鳥が飛来することで有名な多々良沼があり、自然環境に恵まれている。東武小泉線本中野駅周辺には市街地が形成され、行政機能は役場庁舎の周辺に集約。学童クラブの充実や様々な子育て支援により、子育てしやすい環境が整っている。

人口25,386人／世帯数11,124世帯(令和7年12月末日現在)

各種サポート	子育て ●不妊治療不育症治療助成 ●妊婦支援給付金 ●出産祝金支給 ●産後ケア事業 ●保育園・認定こども園	住宅・生活 ●保育料多子軽減 ●幼稚園・保育園・認定こども園の給食費無料 ●町立学童クラブ ●民間放課後児童健全育成事業の多子軽減 ●コミュニティバス運行 ●空家リフォーム補助金 ●空家等バンク事業 ●家庭用防犯カメラ設置費補助金
	農業体験・就農 ●高校生世代(18歳の年度末)まで医療費無料 ●入学準備金・奨学金貸付 ●英語検定料助成 ●オンライン健康相談	就労・起業 ●創業支援事業

問い合わせ先
邑楽町企画課
群馬県邑楽郡邑楽町大字中野2570-1
TEL.0276-47-5009
Eメール plan@swan.town.ora.gunma.jp



都内に通勤、スローライフも満喫

転職しない移住を実現した黛さんファミリー。電車でもマイカーでもラクラク通勤できてストレスフリー。田園風景の広がる中で、スローな暮らしを満喫している。

Profile

黛 泰輔さん・彩子さん

埼玉県鴻巣市 ⇨ 明和町（2017年移住）

泰輔さん・彩子さん夫婦と、想太君（中3）・咲南さん（小6）の4人家族。泰輔さんは移住前と同じ職場まで電車で約1時間半、マイカーで約1時間の通勤時間。彩子さんは埼玉県羽生市に職を得て約20分のマイカー通勤。休日には、サイクリングや庭でのBBQを楽しんでいる。（2022年度取材時点）



田園風景の広がる田舎に住みたい

実家が明和町という彩子さんは、家を作るなら都会ではなく田園風景の広がる場所がいいと願っていた。泰輔さんの通勤圏で彩子さんの希望も考慮し、埼玉県北部から群馬県南東部で土地を探していたところ、希望条件を満たした土地が見つかった。川俣駅から約300m、目の前には広々とした田園風景という絶好の場所だった。

「日当たりがいいので冬は暖房がいらないくらいなんですよ」と彩子さん。約100坪の土地に建てた住宅は、泰輔さんと彩子さんのこだわりが随所に感じられる。南向きの大きな窓からは陽光がさんさんとふり注ぎ、窓の外には見渡す限りに広がる四季折々の田園風景。リビングにつながるウッドデッキは開放感いっぱい、庭で植物を育てたり、バーベキューを楽しんだり、家族のくつろぎの時間を演出する。集合住宅や住宅密集地では音気になるピアノの練習も、ここなら気兼ねなく弾ける。

近くの利根川の土手にあるサイクリングロードからは、富士山も眺められ、サイクリング好きの一家にはぴったり。休日には、一家でサイクリングに出かけることも多く、群馬・栃木・埼玉・茨城の4県にまたがる広大な渡良瀬遊水地を自転車で巡ったこともあるという。

ますます便利に、快適になるまち

移住して6年、これまで特に困ったことなどはないが、近年の都市化だけは想定外だったという。

再開発が進む川俣駅周辺には、2021年に明和セントラル病院が開業。2023年オープン予定のホテル温浴複合施設の建設も進む。道路も拡幅され、国道122号バイパス沿いには大型ショッピングセンターも近々開店する。*

「田舎町だと思っていたので、どんどん開発が進んでいることは驚きです。病院まで歩いて行けるようになったのは特にうれしい。買い物も、館林市や埼玉県羽生

市まで出かけても10分かんないくらいでしたが、もっと便利になりますね」と彩子さん。泰輔さんは「ロードサイドには新しいお店もできるでしょうし、温泉施設ができるのも楽しみです。どんなに都市化が進んでも、町民に対して対応が手厚く、早いことなどは小さな町ならではですね」と、明和町の住みよさを語る。

自然環境の良さと便利で快適な住環境が両立する明和町への移住は、黛さん一家にとって大正解だったようだ。

※2023年に国道122号バイパス沿いにコストコホールセールジャパンが開店、2025年にはHOTEL R9 Premium 川俣駅前がオープンした。

1. 電車通勤は家から徒歩2分の川俣駅が最寄り。職場までドアtoドアで1時間35分。川俣駅から朝6時台には浅草駅までの直通列車が10分おきに走る。
2. 高校時代に同級生として知り合った黛さん夫妻。移住当時、小学4年生だった長男の想太君も入学したの咲南さんも、すぐに学校になじみ、子ども会の行事を通して親同士も親しくなった。
3. 平屋建ての黛邸は目の前に遮るものがなく、開放的なウッドデッキや庭が休日の楽しみを広げてくれる。

黛さんの通勤ライフ

電車の場合
（1時間35分）



マイカーの場合
（約1時間）



2022年度取材時点

都心の職場までラクラク通勤

都心の会社に勤務する泰輔さんは、彩子さんとの結婚を機に埼玉県鴻巣市に居を構え、以来10年間、同市の集合住宅で暮らした。明和町に移住したのは6年前。長女・咲南さんの小学校入学のタイミン

グで土地を購入し、一戸建てを建てて移住した。「職場まで通勤できることが決め手でした。移住前には、JR鴻巣駅から日本橋の職場まで約1時間20分、電車はいつも混んでいて座れたことがなかったんです。ここなら最寄りの東武伊勢崎線・川俣駅から座って通勤でき、所要時間も10分程度の違いです。毎日のことなので、ストレス

のかかり方が違いますね」と泰輔さん。コロナ禍以降はマイカー中心の通勤に切り替えた。高速道路を使い、最寄りの東北道・館林ICから乗って首都高・浜町ICで降りる。渋滞する時間を避けて5時半に家を出るので、6時半には出社できるという。職場を変えることなく、庭付き一戸建てに住むという夢を叶えることができた。



マイホームを建てたい！

マイホームを建てて移住した黛さんファミリー。右図のように、群馬県の土地付住宅の購入費は東京と比べて断然安く、敷地面積は東京の約2.5倍。庭でガーデニングを楽しむ人も全国一多い※1。

なかでも平地の広がる太田・館林・邑楽地域は、可住地面積も県内他地域より圧倒的に広い。

- ※1 社会生活基本調査47都道府県ランキング（R3）
- ※2 住宅金融支援機構・フラット35利用者調査（R6）
- ※3 総務省・統計でみる都道府県のすがた2025

住宅購入資金 ※2

¥4,437.1万

群馬25位
※土地付注文住宅

東京47位/¥7,307.6万

住宅の敷地面積 ※3

群馬9位 338㎡

※1住宅あたり

東京46位/139㎡



詳しくはこちら！



Profile

金田友輝さん・なつみさん

東京都狛江市 ⇨ 邑楽町 (2019年移住)

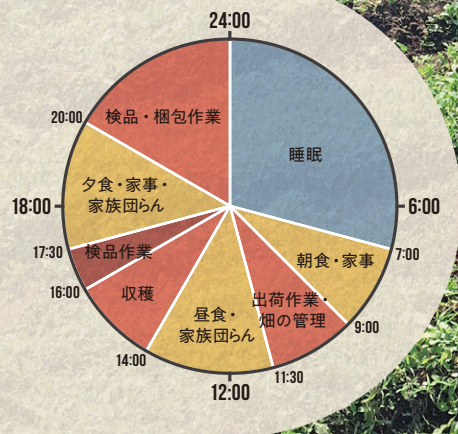
友輝さん・なつみさん夫婦と移住後に生まれた1歳半の息子さんの3人家族。自然豊かなところで暮らしたいと邑楽町に移住。新規就農して自然栽培農法で野菜を育て、ネット販売。緑あふれる環境の中で、仕事も子育ても充実した日々を送っている。
(2022年度取材時点)

豊かな自然の中で、農家に転身

農業未経験ながら、都内から移住して新規就農したご夫婦。

SNSを駆使して販路を開拓し、お客様と信頼でつながる農家を目指している。

ある日の金田さんの農家ライフ



2022年度取材時点

適度な田舎で

農業をやってみたいと

埼玉県久喜市出身で保育士として都内に勤務していた友輝さんと、埼玉県加須市出身のなつみさんは、結婚後も都内で暮らしていたが、都会の生活に息苦しさを感じ、自然豊かなところで暮らしたいと思うようになった。

そこで、友輝さんの祖母の残した家と畑がある邑楽町への移住を決めた。最初から農家になろうと決意していたわけではなく、「とりあえず祖母の家が空いているので、移住して暮らしながら考えよう」くらいの気持ちだったという。

なつみさんにとっては初めての土地

だったが、気さくに接してくれるご近所の方に、都会とは違う人の温かさを感じて感動した。「時間の流れが都会とは全く違って、ゆったりと流れているように感じ、気持ちにもゆとりが生まれました。のどかな風景にも癒されました」と、邑楽町での暮らしをすっかり気に入った。移住してすぐに庭で家庭菜園を始めたなつみさんは、ご近所の方から野菜作りのアドバイスをもらったり、畑で採れた野菜を交換したりしながら、周りとのいい関係を築いていった。そんな中、保育士時代に食育の重要性を感じていた友輝さんも農業に興味を持つようになった。

そこで、自然栽培をしている農家で約1年間の研修を受け、祖母の残してくれた畑で本格的に農業を開始。農薬や肥料

を使わず、自然の力を生かす農法で、今では約40品目70種類を育てている。冬も降雪せず、イノシシなどの獣害もなく、四季を通して栽培できるこの地域は、むしろ自分たちのやりたい農業に向いているという。



SNSを活用して販売、横のつながりもできた

野菜の販売には主にSNSを活用。少量多品目の季節の野菜をセットにして箱に詰め、全国発送する。また、近くの方には農園まで取りに来ていただく。その他、地元のスーパーの地場産コーナーやマルシェなどのイベントにも出店している。「無農薬だからいいということではなく、私たちの人柄を見て、信頼して買っていただくのが一番」と、顔の見える農家を目指す。イベントでは、出店者同士の横のつながりもでき、飲食店で取り扱ってくれることも増えてきた。

価値あるものを提供したいと、無農薬では避けられない虫のチェックなど、検品・梱包に半日はかける丁寧さ。それでも、お客様に喜んでいただき、おいしいという声を聞くことがやりがいになっている。

まだまだ理想と現実と悩むことも多いが、目標は100年後、200年後もこの畑を残していくこと。そして、この事業を継続し、軌道に乗せることだという。

のびのび子育て、近くで観光気分も味わえる

お子さんが生まれてからは、なつみさんは子育てに追われるようになったが、自然の中でのびのび子育てできる環境に満足している。

仕事の合間には、お子さんをベビーカーに乗せて近所を散策するのが金田家の日課だ。「広い公園が近くにあって、安心して子どもを遊ばせられます。自然と触れ合える環境で、いろいろ体験させながら子育てできるのがうれしいですね」と友輝さん。なつみさんも、「近くにある子育て支援センターや図書館はよく利用していて、親しいお友達もできました」という。

公園や支援センターで出会ったママ友は、知り合いのいない土地で初めての子育てをするなつみさんの強い味方で、子育て情報を教わることも多い。小児科も病院も近くにあって、いざというときも安心な上、買い物など日常生活での不便も感じていない。大型ショッピングセンターのある太田市まで出かけてもマイ

カーで約20分。都市部にもほどよい近さで、適度な田舎でのゆとりある暮らしは、かつて「こんなふうに暮らしたい」と思い描いていたものだった。

毎年楽しみにしているのが、夏の風物詩になっている町の花火大会。都会と違って人混みにストレスを感じることなく、間近で観覧できるのがとてもうれしい。時には多々良沼に白鳥を見に行ったり、館林美術館に出かけたり……。実家のある埼玉県も近く、栃木県の足利市にもよく出かける。ここに住むようになって県境を意識しなくなったという二人。「遠くに出かけなくても、近郊だけで観光気分を味わえるのが、この地域の良さですね」と語ってくれた。

1. 子どもが生まれて「食」の大切さをより実感するという金田さん夫妻。「野菜嫌いのお子さんが野菜を食べるようになった」と、うれしい声を聞くことも多い。
2. 季節ごとの野菜セットを箱詰めして販売（写真は夏野菜）。皮ごと安心して食べられ、野菜本来の味がすると評判だ。
3. 農作業が一段落したら、近くの公園まで散歩に出かけるのが日課だという。

ぐんまへ
移住して、

農業を始めてみたい！

広々とした農地が広がる太田・館林・邑楽地域では、小麦やきゅうり、梨、花き栽培などが盛ん。未経験から新規就農したいなら、まずは「ぐんナビ 群馬で就農」※1で情報を集め、「新・農業人フェア」などにも参加して、相談してみよう。また、JA 邑楽館林※2でも新規就農者を支援している。

※1 ぐんナビ
群馬で就農

※2 JA 邑楽館林



Profile

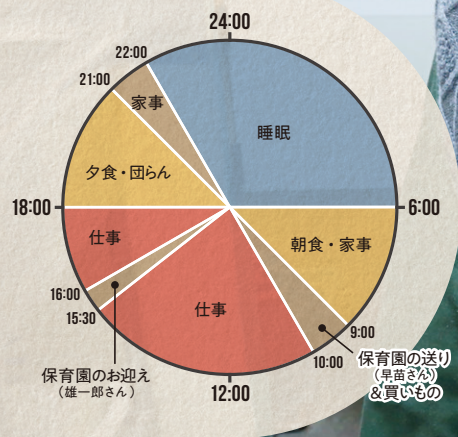
佐藤雄一郎さん・早苗さん

神奈川県横浜市⇒館林市(2016年移住)

東京・神田生まれの雄一郎さん、横浜生まれの早苗さん夫婦と、龍くん(小3)・咲月ちゃん(4歳)の4人家族。移住して自宅兼店舗で自家焙煎コーヒー店を開業したのが7年前。移住後に咲月ちゃんも生まれ、子育てと仕事を両立しながら、人々に愛される店のスタイルを守っている。(2022年度取材時点)

のびのび子育て、店舗開業の夢も実現

横浜から移住し、本格的な自家焙煎コーヒー店を開業した佐藤さん夫婦。
人が温かく、ゆとりを持って子育てできる環境に満足している。

ある日の佐藤さんの
子育て＆仕事ライフ

2022年度取材時点

自宅を兼ねた店舗を開く
夢を追って

横浜で喫茶店を営んでいた佐藤さん夫婦には、「いつか自宅を兼ねた一軒家で自分たちの店を開きたい」という夢があった。長男の龍くんもまだ小さく、仕事と育児の両立が難しかったからだ。また、都会では、自宅と店舗の両方にかかる家賃や税金などの経費が、地方とは比較にならないくらい高かったという。

転機は7年前に訪れた。長く空き家になっていた雄一郎さんの親戚の家を相続できることになったのだ。二人ともこれまで群馬を訪れたことはなく、見知らぬ土地への移住となったが、夢を叶えたいという思いが勝った。また、当時2歳だった龍くんを自然豊かな場所で育てたいと

いう気持ちもあったという。「周りの人々が温かく迎えてくれ、都会では考えられない親切さに感動しました」と早苗さん。金物屋だった居抜き店舗は物であふれ、片付けは想像以上に大変だった。「金物屋がまだ営業していた頃よりお付き合いのある方が快く手伝ってくださいました。今も親戚のようなお付き合いをさせていただいています」という。改装に当たっては、必要最小限の工事だけ

を工務店に依頼し、自分たちで壁を塗ったり、いただき物やリサイクル品を利用したりして、3か月後には自家焙煎珈琲「copicopi(コピコピ)」をオープン。手づくり感満載の店内は、二人の温かい人柄をよく表すとともに、レイアウトやオブジェにもこだわりを感じる。店舗の奥は住居スペースで、お店に立ちながら子どもの世話もできるような造りにした。



自家焙煎コーヒー店「copicopi(コピコピ)」の前に並ぶ佐藤さんファミリー。雄一郎さんのビンテージバイクにまたがるのは長男の龍くん。



「ここを選んでよかった」と笑顔で話してくれたご夫婦。

ぐんまへ
移住して、

子育てと仕事を両立したい！

遠くに出かけなくても身近に広い公園がたくさんある太田・館林・邑楽地域。自然の中でのびのび子育てできる環境が整っている。

群馬県の幼保連携型認定こども園の数は東京より多く※1、都会では深刻な待機児童問題も発生していない※2。

※1 こども家庭庁・認定こども園数(R7)

※2 こども家庭庁・保育所等関連状況とりまとめ(R7)

幼保連携型認定こども園数

※1

221 群馬

8位

62 東京40位



待機児童数 ※2

群馬

0人

東京

339人

近くに広い公園が
たくさんあるのも
うれしい！のびのび育てたいという
願いも叶った

「子どもは地方でのびのび育てたいというのが、僕たちの願いだった」と話す雄一郎さん。都会育ちの二人にとって、館林のゆとりある環境は驚きの連続だったようだ。早苗さんは「一番びっくりしたのは保育園の広さです。館林の保育園は都会の保育園が10園くらい入ってしまいそうなほどでした。横浜では、役所に何度も相談してやっと保育園に入ることができました」という。保育園だけでなく、どこに行っても広々していると感じた。近所のスーパーマーケットの駐車場も「アメリカ映画で見たシーンのよう」と驚いたとか。

龍くんも、移住後に生まれた咲月ちゃんも、希望の保育園に入園することができ、時間外にはファミリー・サポート・センターなども利用しながら、仕事と子育てを両立させてきた。

最近では子育ても落ち着いてきて、早苗さんは子ども会の役員を引き受けた。自治会の高齢者と一緒に活動することから、町内の人との関わりも密になったという。廃品回収や

ゲートボールの行事、群馬県の郷土かるた「上毛かるた」の練習会などにも参加。子どもたちの顔を町内の人知ってもらったことで、防犯の面でもよかったと思っている。

上州人の
“義理人情”に感動

オープンから7年。こだわりの豆選びと確かな焙煎技術が評判を呼び、常連客もずいぶん増えた。「お客様と絆を結ぶには館林でよかった」と雄一郎さん。人間味あふれる付き合いができ、応援してもらっていることを肌で感じるとか。「私たちもできる限りいいサービスをしようと思う」という早苗さんは、上州人気質を表す上毛かるたの『雷とからっ風義理人情』を実感する日々だ。

お客様から採れたての野菜をいただいたり、料理の作り方を教わったり。温泉好きだと言うと、あちこちの温泉の情報を教えてくれる人もいる。都会とは異なる人との距離感に慣れるまで時間がかかったが、今ではそれを楽しむと同時に心からありがたいことだと感じている。

コロナ禍では開店時間を短縮したが、常連客は変わらず来店してくれた。「みなさん、ほっとする癒しの時間を求めてきてくださいます」と早苗さん。「コピコピのコーヒーを飲まないと、コーヒー難民になっちゃう」という大ファンもいるほど愛される店になった。閉店後のテイクアウトや焙煎豆の販売窓口も新たに設けた。家で本格コーヒーを楽しむ人が増え、豆の需要は逆に増えたとか。

「コピコピという店も生き物。コーヒーを飲むだけでなく他にも店はあるけれど、コミュニケーションや癒しの時間を提供する、この店のスタイルを守っていきたい」という雄一郎さんの隣で、早苗さんが笑顔でうなずく。優しく、温かい二人の雰囲気が、この店のファンを増やしている。

1. 早苗さんが丁寧にハンドドリップを始めると、芳しい香りが店舗内に一気に広がる。
2. 産地ごとに並ぶ焙煎前の生豆。品質の良い豆を選ぶ目利きと焙煎技術が味の決め手。
3. 「おいしく入りました！」と早苗さんが淹れてくれたコーヒーは、味わう前からおいしさが伝わる。
4. 癒しの空間を提供したいという店内には、お客様に自由に弾いてもらうためのギターや、珍しい手挽きコーヒーミルなども置かれている。

子育てと、初めての農業を両立

3人の子どもを育てながら、板倉町で就農した柏崎祐子さん。
義父母が営む農園で、新しい形の農業経営にも挑戦している。

Profile

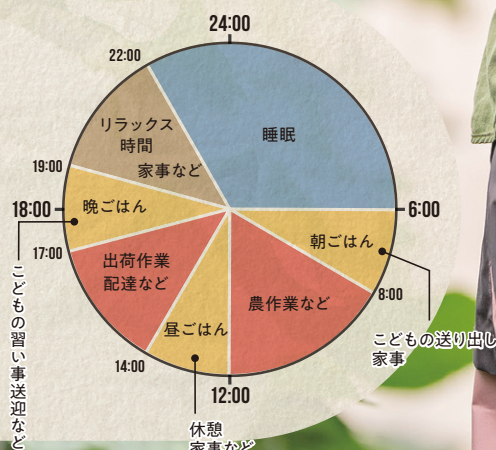
柏崎祐子さん・賢一さん

東京都⇒守谷市⇒板倉町(2017年移住)

佐賀県出身の祐子さんと地元へUターンした賢一さん夫婦。貴太君(中2)・凛さん(小6)・玲さん(小4)のほか、賢一さんの両親である富治さん・富三江さんの7人家族。祐子さんは未経験ながら義父母の農園で農業を始め、賢一さんは移住前の職場である横浜まで電車通勤している。



ある日の柏崎さんの農家ライフ



農業に初挑戦

新たな販売ルートも開拓

佐賀県出身の祐子さんは、大学時代に板倉町出身の賢一さんと出会った。それぞれ都内で就職し、結婚後もしばらくは会社員として共働きしていたが、いずれは農家を継ぎたいという賢一さんの希望もあり、長男の小学校入学前に、実家を建て替えて板倉町に移住した。

自然豊かな環境で子育てしたかったという祐子さんは、賢一さんの実家が魅力的だったという。農家を継ぐつもりでUターンした賢一さんだが、今も会社員を続けている。ご両親もリタイアする年ではないので、まずは祐子さんだけが加わることになった。

栽培品目は町特産のキュウリをメインに

お米など。以前は農協に全量出荷するスタイルだったが、祐子さんが加わったことにより、「かしいち農園」と名付けて直売所やインターネットでの販売も始めている。「お客様の顔が見える直売所などで直接お届けできる方がモチベーションも上がります」と祐子さん。売り場に商品を並べながらお客様の声を聞くのも楽しい。仕入れにきたレストランのシェフからの要望で新しい品目に挑戦することもある。2年目ぐらいから作り始めたミニトマト「プチぶよ」は、今では大人気の商品となった。「もとは義母が自家用に作っていた薄皮のサクラボミみたいな食感のトマト。私が大好きで、お子さんのいるご家庭にはきっと喜ばれると思って」と、消費者目線で新たな品目の販売にも力を入れる。

人間関係が温かく

すんなり溶け込めた

板倉町の風景は出身地の佐賀県とよく似ていて、初めての土地なのになじみを感じたという祐子さん。「平地に田んぼがパーッと広がっていて、空にはバルーンが上がって」。子どもを連れて知り合いのいない場所への移住となったが、周りに温かく迎え入れられ、すんなり溶け込めた。近所に、同世代で子ども同士も同級生、親元で農業を始めたという友人が何人かできたことも大きかった。

賢一さんは、育成会や消防団から声がかかり、現在は両方の活動をしている。ふるさとを10数年離れていたが、学校関係はもちろん地域の人たちと交流する機会ができた。活動を通じて空白の時間が埋

められてきたという。

給食に感動

地域の中で育つ子どもたち

移住して一番感激したのは学校給食だという祐子さん。保育園も小中学校も自校給食で、地元の農家による『食材の会』が採れたての季節の野菜や米を納入している。鮮度抜群の食材でつくるおいしい給食が無料で提供されることが、何よりありがたいと力を込める。「栄養士さんが献立をいろいろ工夫してくださるんです。珍しい国の料理が出たり、学期の始まりなど行き渡る子の多い時期には子どもたちの大好きな献立が立て続けに出たり。うちの子たちも毎日献立表を見て、テンションを上げて学校へ行きます」。また、かるた大会や季節の祭りなど世代を超えて参加できる行事が多く、地域の中で子どもたちが育っていることも安心につながっているという。

町の子育て支援策の手厚さにも驚いた。出産祝い金やおむつ券、チャイルドシート購入費補助など、さまざまな支援策が充実している。「わが家は子どもたちが小学校

に上がるとき、お祝いを頂きました」という祐子さんは、のびのびと子育てしたい方にはおすすめの場所だと、板倉町の子育て環境を心から気に入っている。

通勤・通学・レジャーにも

便利な交通アクセス

勤務地の横浜まで遠距離通勤している賢一さん。「古河駅まで車で、そこから」R宇都宮線上野東京ラインで乗り換え無しで通えるんです。古河駅から都内まで通勤している人もたくさんいますよ」という。コロナ禍では完全在宅ワークになり、早朝や週末に農作業を行いながら、在宅で仕事をする暮らしが4、5年続いた。

都心に1本で行くならJR、近隣への通勤や高校生などの通学には東武線の板倉東洋大前駅と、用途に合わせて路線を選べ、埼玉方面にも栃木方面にもアクセスがいい。車なら東北自動車道の館林インターも近く、茨城方面にも、県北方面にも気軽に出かけられる。「冬にはよくスキーに出かけます。県内はもちろん福島や新潟へも。娘の推し活で都内に行くこ

ともよくあるんですよ(笑)」と、祐子さん。賢一さんもアクセスの良さがこの地域の魅力の一つだという。

仕事は在宅ワークなら全く問題ない上、都内通勤も可能。都会では夢のような広い庭付き一戸建てを新築して移住したお二人は、この地域をさまざまな可能性が広がる場所だと語ってくれた。



1. キュウリの他にオースタムボエム、ロメインレタスなど珍しい野菜の栽培にも挑戦。直売所やネット販売で人気を集めている。
2. 採れたての野菜で料理の腕を振るう賢一さんと祐子さん。建て替えた家は、7人家族がゆったり暮らすのに十分な広さを確保できた。
3. 移住して8年目。のびのび育った子どもたちは、すっかり“いたくらっ子”になった。



ぐんまへ
COLUMN 移住して

子育てしやすい場所で農業に挑戦したい!

高校卒業まで通院費を含めた医療費無料という全国トップクラスの県の施策に加え、7市町それぞれに特色ある子育て支援策を実施しています。3人のお子さんを子育て中の柏崎さんは、町の手厚い子育て支援(p5参照)にも助けられていると話します。また、年間の日照時間全国2位※1を誇る群馬県の中でも、晴れの日が多いエリアなので、農作物も良く育ちます。

※1 総務省・統計でみる都道府県のすがた2025

年間日照時間 ※1

群馬
2位
2,497時間



晴れの日が多く
農業に最適!

光合成を促進する長い日照時間と、利根川沿いの水が豊富な土地はキュウリ栽培に最適で、板倉町は全国有数のキュウリ生産量を誇る。

Profile

小林勇太さん・麻菜さん

東京都⇒高崎市⇒千代田町(2022年移住)

東吾妻町出身の勇太さんと千代田町出身の麻菜さん夫妻。都内から高崎を経て千代田町に移住。自家焙煎コーヒー店「HIRAKU-ひらく-」を開業し、店舗経営とともに移動販売車によるケータリングやイベント出店、オリジナルコーヒー商品のオンラインショップ、道の駅等での販売などを行っている。

時間がゆったり流れる理想の場所で開業

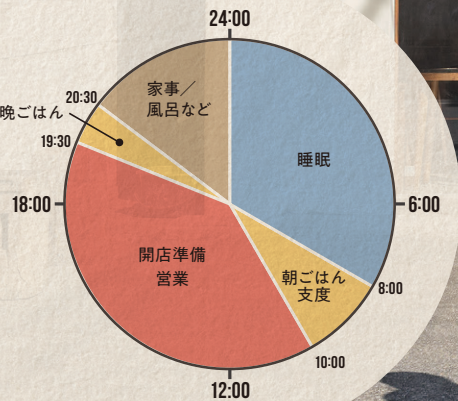
コーヒーの道を究めたいと国内外を巡ったご夫婦。

利根川のほとりに理想の地を見つけて、自家焙煎コーヒー店を開業した。



HIRAKU COFFEE

ある日の小林さんの店舗営業ライフ



コーヒーの道を究める夢を追って

東吾妻町出身の勇太さんは、都内の大学に在学中からコーヒーに関わる仕事を目指していた。卒業後はコーヒーの道を究めたいと、国内外を転々と、ホテルや旅館で働きながら休みの日にコーヒー店を巡る日々を送る。「国内では北は岩手県から南は熊本県まで。コーヒーだけでなく、各地の食べ物や風習を自分の目で見て体験したいという気持ちもありました」と語る勇太さん。探訪したコーヒー店は実に500店舗以上というから驚きだ。

一方、麻菜さんは千代田町出身だが、高校から町外へ。大学卒業後は都内で就職。旅の途中だった勇太さんに出会い、コーヒー店探訪の旅の続きに同行した。

群馬に戻った当初、最初は高崎でキッチンカーでの開業を目指す。コーヒースタンド経営者に教わり、DIYでキッチンカーを



製作。しかし、その記念すべき1台目はスタートからわずか2カ月で事故の被害を受け廃車になり、そのまま約1年休業。ところが、お二人はそこで夢をあきらめなかった。約半年後には再チャレンジを決め、クラウドファンディングで資金を集めて2台目のキッチンカーを製作したのだ。



店名の「HIRAKU-ひらく-」は、明日への活力、自分の内側の扉を「開く」という意味。ほっと一息つける場所として地域に根付いた。

のどかさにひかれて移住 周りの助けで店舗をオープン

実店舗を構えるなら都市部ではなく、ゆったりとした時間が流れる静かな場所で、と考えていた勇太さん。まずは出身地近くの中之条町で物件を探し始めた。移住者増加中の中之条町には空き物件も多かったが、希望の物件には出会えなかった。そんなとき、麻菜さんが見つけたのが今の場所。間取りもジャストサイズで、焙煎機を置くスペースもあり、希望にぴったりだった。

「たまたま私の実家の近くで見つかったというだけ」という麻菜さん。勇太さんは「雄大な利根川が流れていて、見渡す限り平らでゆったりとした時間が流れている。理想の場所だ!」と感激したという。

和食店だった店舗のリノベーションに当たっては、多くの人の手を借りた。デザインは内装デザインを学んでいた麻菜さんの妹さんに、設計図は1級建築士のお客様に。知人や友達にも声をかけて、パールで壁を打ち抜くところから始めた。大工さんの助けを借りながらDIYも行い、

イメージ通りの店舗が完成し、2023年12月、開業にこぎつけた。

店舗経営とともに、自家焙煎したコーヒー豆を県内外30カ所以上のスーパーや道の駅などで小売りしたり、レストランやカフェ向けの卸売りを行ったり。オンラインショップでの定期便にも力を入れている。イベント時にはキッチンカーで出店。そこでもつながりができてお客様が広がり、別のイベントに誘われることもあるという。

他県とも近く 人の温かさにも感動

駅も国道もないけれど、暮らしに不便は感じないという勇太さん。都内方面へは東武線川俣駅まで車で約15分、JR熊谷駅まで約30分。1時間圏内で埼玉も栃木も茨城も行けて、行動範囲は高崎に住んでいた頃よりむしろ広がった。「高崎の頃は市内からほとんどでしたが、県外からのお客様もいらっしゃいます。赤岩渡船で埼玉から来られる方も」と、この地域ならではの魅力を発見した。

物価も都会とは比べ物にならない。特に、移住3年目の勇太さんは日々発見があるという。元々舟運で栄えた宿場町だった場所で、その歴史を近所の人から聞くのも興味深い。空の広さや川面に映る夕陽の美しさにも感動し、千代田ブレンドと名付けた商品のパッケージデザインには夕陽を使った。

人が温かいことも魅力だとか。「うどん屋さんの店先に地元のおじいさんたちが集って話をしている、そんな何気ない風景が心地よくて大好きです」と、のどかな日常を語ってくれた。



- 厳選したコーヒー豆を自家焙煎。豆の知識を深めるために、毎年、国内外のコーヒー農園を訪れる。
- 2台目「HIRAKU」号。ロゴマークには、「鶴舞う形の群馬県」から国内外のお客様の元へ羽ばたきたいという思いを込めた。
- オンラインショップでも人気の各種オリジナル商品。千代田町産ビール麦とコラボ開発したコーヒーエールはふるさと納税の返礼品にもなっている。



ぐんまへ
移住して、

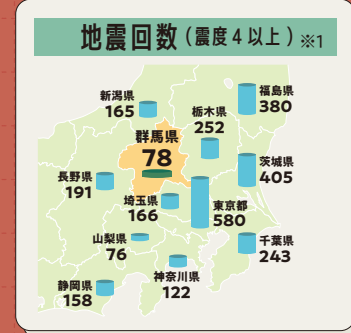
安全で、ゆとりある暮らしを送りたい!

群馬県は過去100年以上にわたり、震度4以上の地震回数は近県に比べて断然少なく※1、万一首都直下地震が発生してもほとんどの地域が震度5強以下と想定されています。

また、物価の安さは全国1位※2。家賃は東京の1/2以下。地価も安いので、広々とした庭付き一戸建てでも夢ではありません。

※1 気象庁・震度データベース (1919年1月1日～2026年1月31日)

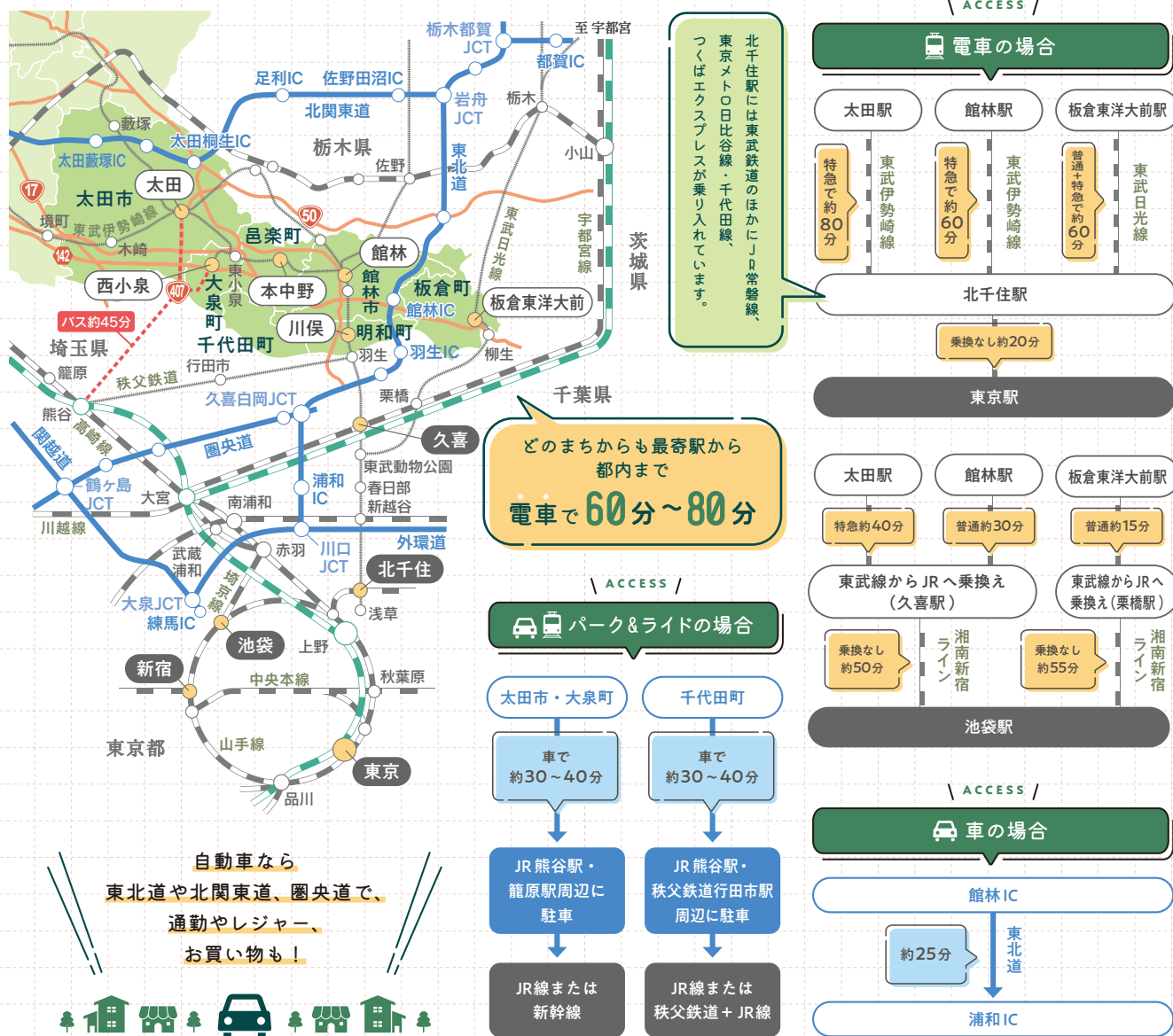
※2 総務省・小売物価統計調査 (R6)



地震が少なく安心!
物価が安いのも
うれしい!

太田・館林・邑楽地域からの主な交通網

このエリアから移動する際の主な交通網は、下図のとおり。都内まで電車で60分～80分。近県はもちろん、都内までの“移動が楽”なので、職場を変えずに移住が可能。また、高校生や大学生は、自宅から通学できる学校の選択肢が広がります。交通の便が良いから、お買い物やレジャーにも気軽に出掛けられますよ。



移住までの基本ステップ



群馬県全域の情報収集には
ぐんま暮らしポータルサイト「ぐんまな日々」



東京都内の相談窓口
ぐんま暮らし支援センター



移住資料配布
群馬県東京事務所

